



校長室だより

学校と家庭・地域を結ぶ架け橋通信

第8号 令和3年6月28日

小美玉市立美野里中学校

あなたを支える「言葉の力」

地区大会を終え、たくさんの部が、チームや個人として、中央地区大会・県大会に進んでいます。まさに、美野里中学校のパワーを強く感じています。一方で、地区大会を終え、新たな目標に向かって歩み出していかなければならない3年生もいます。

そうした状況の今現在、「言葉の力」について、今回は生徒の皆さんにお話ししたいと思います。

大会が続いている生徒も切り替えなければならない生徒も、美野里中生は「伸びしろ」だらけです。美野里中生のもつ潜在能力は計り知れないものがあります。それは、運動も勉強もです。こんなものではありません。まだまだできます。

中学校での部活動が終わってしまった3年生も、これで、好きな部活動ができなくなったわけではありません。高校でまた思う存分やればいいのです。しかし、自分にとってよりよい環境に身を置くことを切り開いていくのは、「自分自身」です。こればかりは、他の人が代わることはできません。

大会が続いている生徒も切り替えなければならない生徒も、自分の道を切り開いていくときに大きな支えになるのは、「言葉の力」です。あなたは、自分を支えてくれている言葉をいくつもっているでしょう。もし、まだもっていない人がいるなら、その言葉を意識して探し、ノートに書きためてほしいと思います。



今現在の自分の心に響く言葉を探すのです。スポーツ選手を含めた伝記からでも、小説からでも、哲学や心理学の本からでも、あるいはビジネス書からでも、何でも構いません。

これは、私も実践していることです。切羽詰まっていたり、苦しんでいた、決断を迫られたりしているときこそ、本当に自分に響く言葉が見つかります。ただし、探す努力はしなければなりません。ノートに書き留め、それを繰り返し読んでみるのです。それが血肉になって、行動に変わるまで、読み返していくのです。必ず、試合の最中や受験会場、その他緊張場面で「言葉の力」は発揮されます。

読書は、言葉を探すために行うと言っても過言ではありません。意識して読むのです。その習慣がつけば、今どきで言う「ボーッと生きて」いない道が開けてくるのです。この読書の習慣は、いつからでも始められ、一生続けていくべきものです。「言葉の力」が意義深い人生を創り上げていくのです。

皆さんの命は、一人一人かけがえのないものです。「自分はダメだ」なんて思ってしまったら、こんなもったいないことはありません。自分なりに精一杯やってみることで開ける世界が必ずあります。

そういう姿勢で頑張っている人を、私は心から応援したいと思っています。